

群 教 セ	G02-02
	平 14.209 集

マルチメディア資料集

「わたしたちのくらしと商店のしごと」の作成

— 見学活動の充実に視点を当てて —

特別研修員 黒澤 隆 （藤岡市立平井小学校）

《研究の概要》

本研究では、小学校第3学年社会科「地域の販売に関わる仕事」の学習において、児童の見学活動を補助するためのマルチメディア資料集を Web ページ形式で作成した。作成にあたっては、児童の見学活動に沿った構成で、静止画や動画を豊富に取り入れ、それを見学後のまとめ・確認等に使用することで、実際の見学を補てんし見学活動の効果を高められるように工夫した。

【キーワード：社会 小学校 地域教材 商業 マルチメディア】

主題設定の理由

社会科の指導に当たっては、「地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や調査・見学、体験などの具体的な活動やそれに基づく表現活動を一層展開するようにすること」と、学習指導要領に指示されている。調査・見学とそれに基づく表現活動は、社会科学習の基幹を成す重要な活動であり、これまでも様々な工夫をもって行われてきた。しかしながら、調査・見学活動の経験の浅い小学校中学年の児童にとって、自分の課題に沿った調査・見学を行うことはなかなか難しい。特に3年生では、一度の調査・見学で調べてこられる情報量が限られており、見落とし、聞き落とし等も多い。児童の課題解決の段階に合わせて、繰り返し調査・見学を行いたいところだが、時間や移動手段の制約、受け入れ先にかかる負担等を考えると、何度も見学に行くことができないのが実情である。また、見学時、班毎に視点を決めて見学し、互いの班の発表を聞き合って補わせようとしても、3年生の児童にとって互いの発表を聞き合うことは難しく、自分たちで見たことはよく覚えていても、全体としての理解につながらないことも少なくない。

そこで、繰り返し調査・見学に出かけるかわりに、コンピュータを活用して、臨場感があり児童一人一人の課題に応じて繰り返し調べることができる資料集が作成できれば、少ない見学回数でも学習効果を上げることができるのではないかと考えた。実際の調査・見学活動は社会科の学習として欠かすことのできない大切な要素であり、コンピュータによる資料集で代用できるものではないが、実際の調査・見学活動にマルチメディア資料集を併用することにより、新たな発見やより確実な知識の定着、さらに多様な学習活動の展開に繋げることができると考えた。

藤岡市では、新学習指導要領に合わせて、新しい3・4年生用社会科副読本を作成し、本年度から使用を始めている。本研究は、その中から「わたしたちのくらしと人びとのしごと」の単元を選び、スーパーマーケットを中心とした商店の仕事とその工夫に関する資料集を、副読本に沿った形で作成しようとするものである。副読本で取り上げている商店を中心に構成して、副読本の付属資料集的な性格を持たせることにより、本校だけでなく、市内の各小学校でも活用できると考えた。

以上のことから、社会科副読本に沿ったマルチメディア資料集「わたしたちの暮らしと商店のしごと」を作成し、その活用を工夫することで、一人一人の児童が「わかった」と実感できる調査・見学活動を行えると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

小学校第3学年社会科「わたしたちの暮らしと人びとのしごと～商店のしごと」の学習において、児童の興味・関心を高め、見学活動を補てんして理解を助けるために役立つマルチメディア資料集を作成する。

研究の見通し

商店の仕事に関する静止画や動画を豊富に取り入れ、児童の見学活動に沿った構成で Web ページ形式にまとめれば、見学後のまとめ・確認の際に興味・関心をもって取り組み、理解を助けることができるマルチメディア資料集が作成できるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア資料集「わたしたちの暮らしと商店のしごと」の概要

(1) 基本的な考え方

ア 見学活動の補てん

本資料集は、小学校社会科〔第3学年及び第4学年〕の内容(2)のうち、「地域の販売に関する仕事に携わっている人々の工夫」の学習において、見学・調査活動を補てんするために作成した。ここでの見学・調査活動の補てんとは、「コンピュータの持つマルチメディア機能を生かして画面上で疑似見学体験を行えるようにし、距離や時間の制約なしに繰り返し学習できるようにすること」と考えた。実際の見学では見られなかったことや気づかなかったことを児童の手で探ることができれば、実際の見学活動を補てんし、充実させることができるであろうと考えたものである。従って、この資料集はあくまで見学活動を補うものであり、見学の代わりになるものとは考えていない。

イ 社会科副読本の付属資料集

単元のねらいである「販売の仕事の特色及び国内の他地域などとの関わり、販売の仕事に携わる人々の思いや願いとそれを実現するための工夫などについて考えたり、理解したりすること」や「消費者・生活者としての望ましい態度を身に付けること」を達成するために、藤岡市社会科副読本で取り上げた内容をもとに構成し、副読本の付属資料集的な性格を持たせた。

ウ マルチメディアの特性を生かす

児童が興味・関心をもって進んで学習に取り組めるように、コンピュータの持つ機能や特性を生かして、多数の静止画、動画、音声を取り入れて臨場感を出すことに努めた。また、その際に、学習のねらいに近づけるよう取材した素材を吟味した。

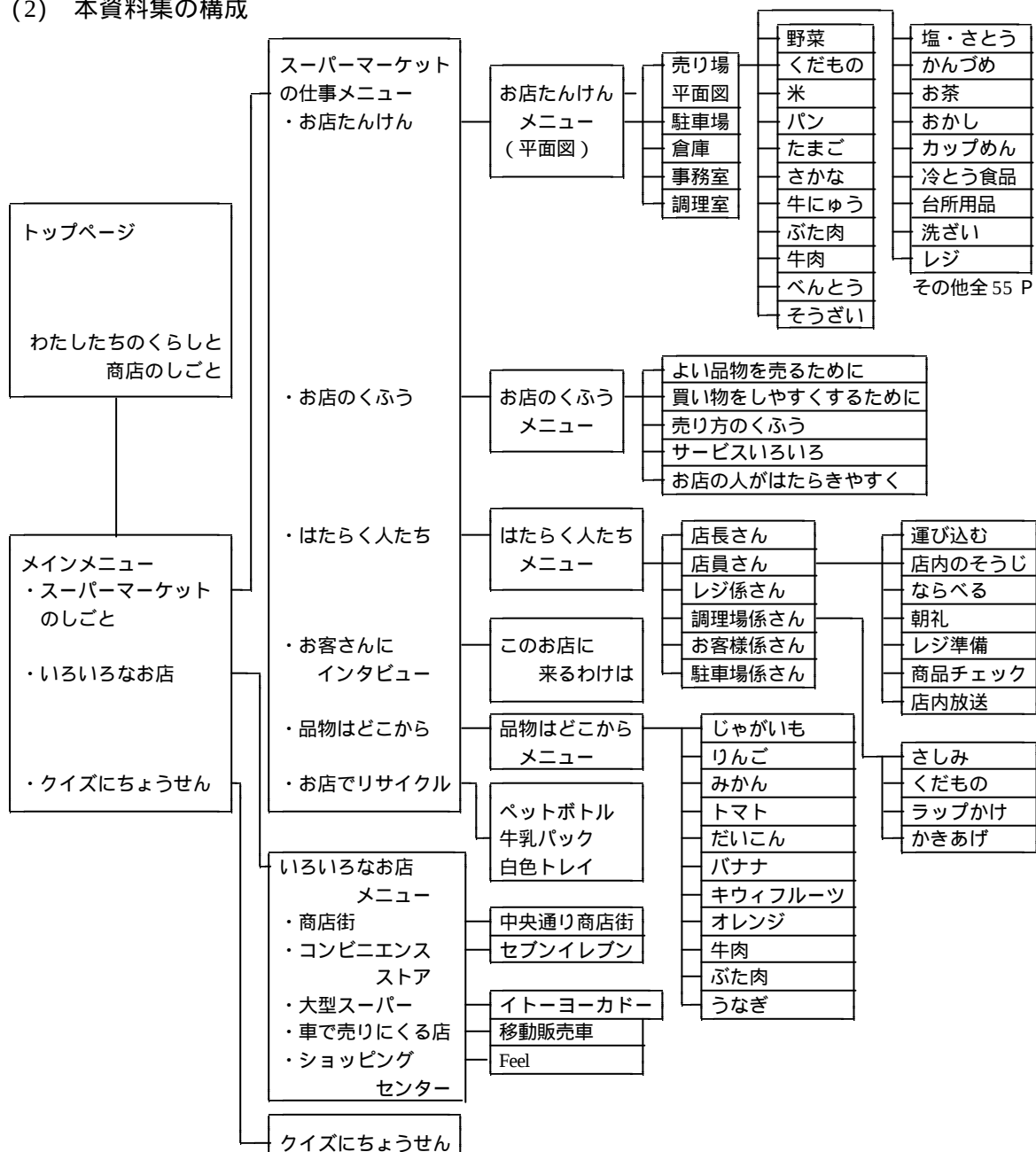
エ 簡単な操作

操作については、使用学年を考慮して全てマウスのクリックだけで操作できるようにした。また、マウス操作によって写真が切り替わったり、動画が動き出したりといった効果を使うことにより、単に画面を見るだけでなく、児童自身が操作に関わっていく要素を盛り込んだ。更に、その際、児童にとって操作方法が分かりやすい画面作り（使用する用語等も含めて）にも心掛けた。

オ 発展的な内容

学習中に生じてくる新しい課題や発展的な内容への対応を考慮に入れ、通常の見学では見ることのできない開店前の様子やスーパーマーケット以外の商店の様子も多く取り上げた。

(2) 本資料集の構成



副読本で中心的に取り上げているスーパーマーケットの施設・設備、従業員の仕事等を紹介するページを中心に、社会科副読本で取り上げている特徴的な形態をもつ商店「商店街」「大型スーパーマーケット」「コンビニエンスストア」「移動販売車」「大型ショッピングセンター」の5つについて、それぞれの特徴と消費者のニーズに応えるための工夫を紹介するページ、単元のねらいに直結する内容や、実際の見学時に見落とし聞き落としてしまったことでも確実に押さえておきたい内容について、クイズ形式で楽しみながら確認ができるクイズのページを付け加えた。

2 本資料集の内容

(1) タイトル

本資料集を起動すると、BGMが流れ、タイトル及び商店の写真が表示される(図1)。キャラクターをクリックするとメインメニューへ進む。児童が親しみを持てるように、操作方法はキャラクターが説明する形を取っている。メインとなるスーパーマーケットの外観を大きく配置し、店舗の様子をわかりやすく示す。なお写真には、マウスを置くと別角度から写した写真に切り替わる(ロールオーバー)ように設定してある。

(2) 「スーパーマーケットのしごと」

メインメニューのページで「スーパーマーケットのしごと」を選択すると、このページ(図2)が表示される。各タイトルをクリックすることで、それぞれの内容に進むことができる。ここに並ぶ項目は、藤岡市社会科副読本の内容に準じたものになっており、副読本での学習の際「動く資料集」として使用することができる内容となっている。

(3) 売り場マップ

売り場の平面図を表示し、図上の品物名をクリックすることで、各売り場のページへジャンプできる(図3)。

店内の各コーナーを細かく撮影して、ほとんどの売り場についてのページを作成した。児童は、見学または買い物気分になって店内を自由に回ることができる。商品の分類名は、実際のものでは3年生にとって難解なものもあるため、児童にわかりやすいと思われる表現・表記に努めた。

また、売り場だけでなく、レジや出入り口周辺のサービス・安全に関する施設・設備などの児童の目につきにくい部分も取り上げ、探検気分を演出した。

(4) 売り場の様子

商品陳列棚と拡大した商品の写真を種類ごとに複数表示し、店内の疑似見学体験ができるようにした(図4)。店内の臨場感を出すために動画を使用したり、ロールオーバーをかけた写真を多用したりして、児童の興味・関心を高めることに努めた。また、各写真には適切なコメントをつけ、店の努力や工夫に目が向くようにした。各売り場のページには「売り場マップ」のページにもどるためのボタンを設定して、自由に行き来できるようにした。



図1 タイトル



図2 スーパーマーケットのしごと



図3 売り場マップ



図4 くだもの売り場のページ

(5) はたらく人たち

「店長」「店員」「レジ係」「調理場係」「お客様係」「駐車場係」について、静止画に加えて働いている様子やインタビューの内容を動画で表示し、繰り返し見るようにした(図5)。

動画の長さは、児童の集中力を考えて20～40秒に抑えた。商品の搬入や開店前の準備など、普段見ることのできない裏方の仕事の様子も多数収録した。

(6) お店のくふう

このページでは、よい品物を提供するための努力、集客数を増やし売り上げ増につなげるための各種サービスや工夫、更に従業員の働きやすさに配慮した工夫も取り上げた(図6)。

「よい品物を売るために」では、生鮮食料品は毎朝新鮮な物が届けられること、冷蔵ケースの冷気を逃がさないための保冷シートをかけることなど、「買い物をしやすくするために」は、店内の案内やお客様係の仕事、「売り方のくふう」では、カットした野菜や果物、野菜のばら売りの様子、「サービスいろいろ」では店内外の各種サービスを、「お店の人がはたらきやすく」では、スイングドアや従業員休憩室などを紹介した。ここでも、見落としがちなサービス、施設設備に児童の目が向くように構成を工夫した。

(7) お客様にインタビュー

店に買い物に来ていたお客さん3人に、この店のよいところをインタビューし、それを動画で示した。このインタビューを聞くことで児童は、客の立場から買い物をする際に重視する要件が「品揃え」「価格」「商品の鮮度」「近さ」「店員の対応、サービス」などであることが理解できるであろう。

(8) 品物はどこから

主な生鮮食料品とその産地を示し、他地域との関わりを示した。品物の写真をクリックすると個々の品物のページへと移り、産地を書いた値札とその都道府県を示す地図がロールオーバーで表示される(図7)。

(9) お店でリサイクル

環境問題への意識が高まり、環境教育の必要性が叫ばれる中、藤岡市社会科副読本では、今回の改訂で新たにスーパーマーケットの環境対策についての内容を盛り込んだ。

このページでは、その中のリサイクルについて取り上げ、牛乳パック、ペットボトル、白色トレイの回収ボックスや商品の入ってきた発泡スチロールケース・ダンボール箱が、どのように処理されているのかについて紹介し、児童の環境問題への関心を喚起した。



図5 はたらく人たち - 店長さん



図6 お店のくふうメニューページ



図7 品物はどこから - じゃがいも

3 実践の結果と考察

(1) 学習指導計画

- 対 象 藤岡市立平井小学校 3年1組
- 教科等 社会科 単元名「わたしたちのくらしと人びとのしごと」
小単元「スーパーマーケットのしごと」
- ねらい 身近な販売活動の実際について、観察・調査したり、表現したりすることを通して、仕事の特色や他地域との関わり、販売に携わる人々の工夫を具体的に考え、身近な地域では、人々が販売に関する仕事をしていて、わたしたちの生活を支えていることがわかる。
- 指導計画（14 時間）

時間	主 な 学 習 活 動	学 習 へ の 指 導 及 び 支 援
1	・自分の家の買い物の仕方を調べ、買い物の際の留意点に気づく。	・買い物調べの用紙を配り、自分の家の1週間の主な買い物調べを行わせる。その際、家人が買い物をするとき優先することや、その店を選んだ理由等も調べさせる。調べた結果をもとに、販売の仕事についての興味・関心を喚起させることに心掛ける。
1	・学習課題を持ち、スーパーマーケットを見学する計画をたてる。	・見学のねらいを明確にさせてから、計画をたてさせる。
4	・スーパーマーケットの見学・調査を行う。 ・どんな物をどのように売っているのか。 ・店の中で働く人の様子。 ・集客のための工夫。 ・お客さんはどこから来るのか。また、なぜその店に来るのか。 ・品物の生産地はどこか。 ・環境を守るための店の取り組み。	・見学時及びインタビューのマナーについては、事前に充分指導しておく。 ・見学時は、たくさんの品物や値札の値段などに気をとられることなく、見学の視点に沿った見学ができるように指導する。 ・分かったこと、気づいたことはその都度記録をとらせる。
3	・本資料集を使用しながら見学をふりかえり、まとめを行う。	・見学の記録に加え、本資料集を使用して見学の追体験をさせながら確認させる。
2	・商店街やその他特徴のある店について調べる。	・教科書（副読本）に加え、本資料集を使用して調べさせる。
3	・調べて気づいたことやわかったことを、ノートや画用紙、模造紙などにまとめ友達と見せ合う。	・文章や絵など、自分なりの方法でまとめさせる。

太字は本資料集を使用した時間

(2) 結果と考察

上記の単元において、本資料集の活用を試みた。児童が見学活動を行った後に、それをまとめる際の確認材料として、また、実際には見学に行かない各種店舗を学習する際に、副読本を補足する資料として本資料集を使用した。

初めは、本資料集をプロジェクターを用いてスクリーンに投影し、児童に考えさせたり、教師が説明を加えたりしながら、重要と思われる事項を確認していった。全員に、教師が意図した資料を確実に見せるためである。

次に、個々のコンピュータで自由に閲覧させた。実際の見学を思い出しながら、もう一度行ったつもりで、見られなかったところやもう一度見たいところを見るように指示した。「お店たんけん」のページでは、児童は喜々としてコンピュータを操作し、次々と売り場のページを表示しては、なじみのある商品を見つけたり、写真が切り替わったりすると歓声を上げていた。これは、店内を見て回る活動をコンピュータ上で疑似体験できるようにした構成に、児童が興

味・関心を示したものと思われる。また、「はたらく人たち」「お店のくふう」「お客さんにインタビュー」「お店でリサイクル」の各ページでは、特に動画に対しての関心が高く、繰り返し再生する児童も見られた。中でもインタビューや裏方の仕事などは注目度が高く、文字で書かれたものよりも強いインパクトを持つマルチメディアの特性を生かすことができた。

児童が本資料集を使用した際の様子や使用後の児童の感想から考えると、「興味・関心をもって学習に取り組ませることができたか」という点では、ねらい通りの結果が得られたと言える。スクリーン上で動画が再生されると、それまで喋っていた児童も画面に注目したり、各自で閲覧した際には（本校では、児童2～3人で1台のコンピュータを使用）、時間が終わるまで画面に集中したりといった姿が見られ、途中で飽きてしまう児童は見られなかった。児童の感想には、「お店の中の写真がたくさんあっておもしろかった。」「ビデオがおもしろかった。」「本で調べるよりおもしろかった。」といったものが多く見られ、それを裏付けている。

更に「見学を補てんし、理解を助けることができたか」という点についても、児童の感想には「お店の様子がよくわかった。」「ビデオがわかりやすかった。」「見学に行ったときには気づかなかったことがわかってよかった。」「見学では見られなかったものが見られてよかった。」などが多数あり、実際の見学を補うことができたものとする。本資料集には、約350カットの静止画と約40編の動画を収録したが、これは多数取材したものの中から学習内容に関わるものを精選・編集したものである。本資料集は、素材を多数用意したこと、そして学習内容に沿うように吟味しその質を高めるよう努めたことにより、児童の理解を助けることができるものになったと考えている。

また、理解を助けるという点に関しては、本資料集の内容とともに、使用方法も深く関わっていると考える。こういった資料集を与えた場合、児童はページを次々と切り替えて多くを見たがり、こちらで指示しない限りは個々のページをじっくり見て観察や考察を行おうとする姿勢が弱い。今回、まずスクリーンに投影し、教師主導で重要事項の確認を行う過程を設けたことも、児童の理解を助けるうえで良い方向に働いたものとする。

研究のまとめと今後の課題

作成した資料集は、見学活動を行ったあとで、それをまとめる際の確認用の資料として使用したところ、児童は興味・関心を示し、楽しく学習に取り組むことができた。また、自分たちが見学した際には見られなかったことや、見落としていたもの、見学には行けなかった店などを、静止画や動画で繰り返し見ることによって、商店の仕事の内容やその工夫などより広範囲な学習内容を理解することにつながった。

映像資料は、単に提示するだけでも興味・関心を高め、理解を助ける効果が期待できるものではあるが、今回、本研究においては、使用する映像素材の吟味、資料集の構成や活用方法の工夫を重ねることで、より意図した結果に近づくことができたものとする。

今後の課題としては、本資料集の使用を学習活動の中にどのように位置づけていくかについて検討を重ね、効果的な活用方法を探ることが挙げられる。資料集はただ与えただけでは、あくまで資料を集めただけの物であり、それを教師が意図的に児童に提示することで、学習のねらいに近づくための材料になると考えるからである。

参考・引用文献

- ・平成13年度 特別研修員研究報告書 第203集 群馬県総合教育センター
- ・『小学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省
- ・藤岡市社会科副読本『わたしたちの藤岡』 藤岡市教育委員会